手をつなぐ親と子

令和5年1月発行　登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 17

殻を破るひな鳥のように　～主体的に生きる～

動物の産まれ方は様々ですが、鳥のひなは卵の殻を破って産まれます。
では、鳥のひなは卵の中で殻が破れるまで、どんなことをしているのでしょうか。
いろいろと想像できますが、次のような話があります。

鳥のひなは、自分のくちばしで卵の殻の内側をこつこつとつつき続けて、外に出ようとしています。早く外に出て、自由に飛び回りたい一心でつついているのかもしれません。しかし、それだけでは卵の殻は破れません。一体どうすればよいのでしょうか。
実は、外にいる親鳥が助けてあげているのです。ひなが内側からつついている場所を探り当て、卵の外側からつついてやるのです。そうすると、その場所に少しずつ穴が開き始め、やっとのことでひなが産まれてくるのだそうです。

これは、昔の中国の教えである『**啐啄同時**（そったくどうじ）』という話です。
ひなが卵から産まれ出ようとするとき、殻の中からつついて音を立てることを「**啐**（そつ）」と言います。殻の中から音が伝わってくると親鳥が外から殻をつついて破ることを「**啄**（たく）」と言います。この「**啐**」と「**啄**」が同時となってはじめて、殻が破れてひなが産まれてくることを言い表しています。本当にこのようにして産まれてくるのかは分かりませんが、この話を私たちの日常に当てはめてみます

ひなは子どもたち、親鳥は保護者や教職員と考えることができます。ひなが卵を内側からつつき続けることは、子どもたちが自分の目標に向かって毎日こつこつ努力している様子を表します。ひなが「早く外に出たい、外で自由に飛び回りたい」と考えるように、子どもたちも「将来〇〇になりたい」「〇〇の学習がよく分かるようになりたい」「友だちに優しい人になりたい」「友だちと仲良くしたい」などと、自分自身の生活を向上させようとする願いや目標をもち、チャレンジしようと考えます。

このように自らの力でがんばっている様子は、身近な大人がしっかりと受け止めることが大変重要となります。家庭・地域では保護者・地域の皆様が、学校では教職員が、親鳥が外側からつつくように、子どもたちの願いや目標がかなえられるよう教え導き、励まし見守り続けることが必要です。

『主体性のある子どもは、親との信頼関係が強い』といわれます。心から信頼することができる存在や、どんなときでも自分をバックアップしてくれる存在がいることは、「自分は愛されている」との実感につながります。そして、「失敗して親に怒られたらどうしよう」「失敗したら親をがっかりさせるのではないか」などと不安にならず、積極的にチャレンジする子どもとなります。

ふだんのお子さんとのかかわり方を、少し振り返ってみる契機になればありがたく思います。